

平成19年度育友会定期総会

50周年記念事業を推進

新会長に松田了氏を選任

平成19年度育友会定期総会が6月2日、生田キャンパス10号館で開かれた。本部・支部役員、大学役員・教職員など179人が出席、本部役員を選出では、新会長に松田了氏が選出された。

総会は三谷啓子幹事の司会で進行、小川恵三会長が「できるだけ多くの会員の方に参加していただける会とするため、本部・支部の一体化を図るとともに、『本部ニュース』の発行など、改革に取り組んできました」と組織の活性化に対する取り組みを報告し、育友会50周年の記念事業の一つとして記念誌発行や寄贈事業などを進めていることを紹介した。

続いて日高義博学校法人専修大学理事長・学長があいさつに立ち、大学創立130周年記念事業と育友会創立50周年記念事業などに関する育友会との連携や、専修大学の情報発信として、初のテレビコマーシャルを放映していることなど、大学の現状と今後の抱負を述べた。

議事では小川会長が議長となり、「平成18年度事業報告・同決算報告」「平成19年度事業計画(案)・同予算(案)」など6つの議案を審議。活発な討論ののち、満場一致で承認された。

事業報告に続き、松田新会長が50周年記念事業にかかわる抱負などを述べ、退任役員を代表して小川前会長が本部・支部活動への協力に対する感謝を述べ閉会した。



▲総会で新役員の紹介が行われた(生田10号館で)



日高理事長



小川恵三会長

育友会

新会長の横顔：松田了（さとる）さん — 世代越えた「専大ファン」増やしたい

「『専大』は学ぶには快適なロケーションにあり、先生方も熱心です。『進学させてよかった』と保護者の皆さんが満足し、卒業生たちも自分の子ども、孫の世代に『専大の良さ』を伝えたくなるような大学であってほしい」と「専大」への熱い思いを語る。

「『育友会』は、上質な知名度を上げるための『応援団』です」。

2年間、副会長を務め上げ、本部常任役員会で話し合われたことを父母幹事と支部役員へ伝える「本部ニュース」の編集責任者も務めてきた。「『情報公開』が最も大切です。社会環境が変化しているいま、父母が大学に求める情報も変わってきている。何をやっているのか理解してもらえなければ、協力も得られません」。

長年、情報処理サービス業に携わり、6年前に独立したパワーで、来年に控えた「50周年記念事業」を牽引（けんいん）する。

「生田キャンパスの通学路に『ソーラーLED街灯』の寄贈を予定しています。学生だけでなく、地域の皆さんにも役立つでしょう。身近なところに『専大ファン』を増やしていくお手伝いを『父母の立場から』していきたいと考えています」。ほかにも創立者4人の出会いから「専修学校」設立までをドラマチックに描く『専修大学創設者物語（仮題）』の出版などを企画している。

文学部日本語日本文学科に学ぶ、ひとり娘の進学先を決めるにあたって、じっくり話し合い、「課題解決能力」を身につけられる本学を勧めた。

鹿児島県出身。酒豪に見られがちだが“一滴”も飲めないそうだ。歴史が好きで「勉強を教えるつもりが、つい脱線して娘に怒られていました」と懐かしむ。趣味は大リーグ観戦。松井秀喜選手を応援、野茂英雄投手の復帰を熱望している。56歳。



育友会全国支部長会

支部活性化へ独自の試み披露

翌3日に神田キャンパスで開かれた全国支部長会には約120人が出席し、昨年度の活動報告や本部との意見交換が行われた。

松田会長、三島英雄専修大学専務理事、庄菊博育友会主任のあいさつ後、札幌、山形、埼玉、静岡(静岡)、福井、高知、熊本、沖縄の8支部が、校友会との連携、キャンパス見学会や「箱根駅伝」応援ツアーの実施など、支部活性化のための独自の試みを紹介した。

その後、本部との質疑応答が行われた。本部からは昨年度導入された支部活動特別援助金についての説明がなされ、支部長からは支部懇談会の出席率向上のための改善案などについて積極的な意見が出された。



庄 菊博主任



▲活発な質疑応答が展開された(神田で)

育友会奨励賞募集

育友会では、本学が掲げる21世紀ビジョンの意図を反映するような、在学生の創造的な企画・努力・成果に対する第8回「育友会奨励賞」の平成19年度募集を行います。

【表彰対象】

(1)対象主題に関する計画、行動または成果。(2)在学中に何らかの実施の確認が出来るもの。(3)独自でチャレンジ精神あふれる内容のもの。

【対象主題】

(1)学業 (2)スポーツ (3)社会貢献 (4)ベンチャー (5)その他本賞趣旨に沿うもの。

【賞の内容】

表彰式および副賞賞金。1件に対しての賞金は5万円～50万円。

【応募方法】

(1)応募書類の表紙にテーマ、応募者氏名、所属(学部・学科)、学籍番号、郵便番号、住所、連絡先電話番号を記載。(2)本文(5000字程度)をA4判に記し、育友会事務局に提出(Eメール、CD-ROM可。必要に応じ、写真・資料などを添付)。

【募集期間】

07年10月10日～23日。郵送の場合は消印有効(司法試験等の最難関試験現役合格者で、最終合格発表が募集期間後になる場合は11月30日まで)。

【選考・入選通知】

書類審査。必要な場合は面接などによる確認を行う。入選者には11月中旬に直接その旨を通知する。ただし、応募締切日の延長が認められた場合は、この限りではない。

【入選発表】

育友会ホームページ及び掲示板にて発表。

【表彰式】

07年12月初旬、神田キャンパス(予定)。

●応募先・問い合わせ先

〒101-8425 千代田区神田神保町3-8

専修大学育友会事務局 電話 03(3265)6299 E-mail: ikuyuuka@acc.senshu-u.ac.jp

平成19年度育友会事業計画

〈要旨〉

1 家庭との連絡強化

2 広報活動の強化

3 会議の開催

(1) 定期総会 (2) 全国支部長会 (3) ブロック会議 (4) 常任役員会 (5) 幹事会 (6) 父母幹事連絡会 (7) 各種委員会 (『育友』編集・育友会奨励賞、ほか)

4 支部懇談会の開催(全国68支部)

5 就職懇談会の開催

経済の動向・学生の活動・大学の指導等早期の情報を父母に提供する場として、就職懇談会を実施する。

6 学内施設見学会の開催

7 大学への助成

会員に送付する「修学状況通知書(成績)」の作成・送付に関する費用の助成。

8 学生に対する援助

(1) 学生自治会及びその傘下団体である学術文化会・体育会・連合県人会・公認サークルが主催する行事や個別サークル活動に対する援助を行う。(2) 図書館「育友文庫」(昭和40年度開設)の充実を図るため、図書館へ図書を寄贈。(3) 鳳祭に「お休み処・育友」を出店し、飲食物のサービス及び鳳祭出店サークル団体へ補助を行う。(4) 第8回「育友会奨励賞」の募集を行い、学部学生が自ら示す計画、行動や成果を表彰する。(5) 家計急変・災害罹災(りさい)学生への学業支援として援助(奨学金支給)を行う。

9 海外育友会への協力

留学生の会員による育友会活動に協力する。

10 本部と支部との連携強化

11 支部活動への支援

「支部活動特別援助金」制度により、支部独自の活動を支援する。

12 校友会との提携

校友会との連携を密にし、協力して専修大学の発展に努める。

13 アンケート調査の実施

育友会活動の具体的施策を検討するため、アンケート調査を実施。

14 育友会創立50周年記念事業の計画

平成20年に本会が創立50年を迎えるにあたり、その記念事業を推進する。

15 育友会OBの育友会活動への参加方法検討

育友会OBの育友会活動への参加方法を検討する。

※詳細は7月発行の「育友」110号をご覧ください。

